

企画名： 「福島から脱原発社会を実現するための未来デザイン」
実施日時： 2012年1月14日 19:00～20:00
実施場所： パシフィコ横浜会議センター 4F 416+417
登壇者： 関 久雄(NPO法人りょうぜん里山がっこう 事務局長)
参加人数： 23名
文責： 関 久雄(NPO法人りょうぜん里山がっこう 事務局長)

今回の企画の達成目標は、「ワークショップを通して脱原発社会の具体的なイメージを出し、行動につなげる」だった。まずは車座になってアイスブレイクをやった後にグループ分けをしてテーブルに着いてもらった。テーマをホワイトボードに書き今回の成果目標を話し、「こんな風だったらいいな」、「こんなことをやりたい」ということを仕事、エネルギー、人間関係、教育、農業、子育てなど、あらゆる分野でのやりたいことをポストイットに文章で書き出してもらった。それを参加者が読み上げ、なぜそう思ったかや気付いたことを話しながら模造紙に貼っていった。それを眺め味わい、同じ内容のものをグループ化した。そして、模造紙に集られた情報を20～30字程度にまとめ、グループごとに発表した。最後は参加者が感想とこれからどう行動するかをポストイットに書き出して終了した。集まった人はNPOの職員、学校の先生、福島からの避難者、デザイン関係者など多様だったが、「答え」を学ぶのではない、答えに至る「方法を学ぶ」ワークショップに手応えを感じた様子だった。感想の中から幾つか紹介します。

「一人だと思いつくこともないアイデア、発想がきけたのが刺激的でした。」、「全体に会場がとがっているような印象がありましたが、このプログラムは温かい雰囲気だったと思う。対立ではなく何をやっていくかを一緒に考えることをやっていきたい。」、「学ぶことが多く参加して良かった。新しい意見もある一方、思いも共有できた。受身にならず、社会を変えていくんだという意識をもって行動したい。」等々。

世界会議は成功に終わったと思う。さて、これからどういうプロセスで原発を無くしていくかが参加した全員に問われてくる。簡単な話ではない。ただ、ワークショップで話したことだが、誰かに「答え」を出してもらおうのではなく、自分で考え「答え」に近づいていくワークショップにはそういった可能性を感じている。問題解決型、未来デザイン型のさまざまなアプローチを「ポスト世界会議のネットワーク」の中から生み出していてもらいたい。